

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### でんでんむしむしカタツムリ…

太田慶子（千葉市）

日 時：2015年6月21日（日）10：30～12：00 天候：曇り一時小雨

参加者：大人13名 子ども9名

担当指導員：太田慶子・藤田英忠

上空に寒気が入り天候が不安定という予報で、朝の下見の折も小雨が降ったりして、参加者がいないかも…と心配したが、観察会の時は小雨がぱらつく程度で、子ども達が中心の“何でもかんでも観察会”は、雨の降りだす前に終わることができた。

例年通り始まるまでは、“カタツムリの剣山ウォーク”や“ナイフの上を這わせたり”、“水の入ったコップに入れてコップ沿いに這いあがる”のを見てもらったりした。（足で包み込むようにして移動するので、尖ったものの上でも平気！肺呼吸なので、水の中では生きていけないので這い上がる）大きなヒダリマキマイマイで、肺孔を広げたり閉じたりするのをしっかり見てもらった。「カタツムリって、こんなふうに息をしているんだ」と納得してもらえたかな…。

林内で捕まえたカタツムリを飼うと入れた野菜を食べずに、まずは入れてある“ハガキ”を食べて白いウンチをする。（普段は柔らかい葉や藻を削り取って食べているが、殻を作るのはカルシウム分が必要で、ハガキには炭酸カルシウムが含まれている）

見本として、ミスジマイマイ、ヒダリマキマイマイ（これだけ口が向って左側にある）、ニッポンマイマイ（殻がピラミッド型）、ウスカワマイマイ、オナジマイマイ



食べ痕と白いウンチ

（林内でなく広場など開けたところにいる）のマイマイと、ヤマタニシ（陸生で入口に蓋がある）を見せる。カタツムリ（正式にはマイマイ）には光を感じる長い触角と匂いなどを感じる短い触角があると、絵などでも説明する。

林内に入ってカタツムリ探し。この季節は子どもがたくさんいる。ヤツデなどの大きなしっかりした葉にニッポンマイマイの5mmほどの赤ちゃんがいっぱい。透き通ってきれい。大人のカタツムリは木の高い所に登っているものが多い。カタツムリ以外にも、子ども達は目についた虫？を「これ何？」と質問してくる。ザトウムシ、オオヒラタシデムシ…、トンボはちょうどノシメトンボがたくさん羽化しているし、ハグロトンボや真赤なショウジョウトンボもいて、網を振り回して捕えようとする。網の使い方はこう…と教えたり…。何より、田んぼの小さなカエルが子ども達の心を捉えたようで、脚が生えても尾が残っているシュレーゲルアオガエルを手を取っている。「カタツムリもカエルも確かに水が好きだが、水の中では生きられない（鰓呼吸ではないから）」というと、大人も「へえ～」と。これがふつうの反応だと思う。

最後に田んぼのオオタニシ（殻先が尖っている）を割って、中の薄青色の卵と子タニシ（卵胎生）を見てもらった。このオオタニシを持って帰って飼いたいという女の子がいて、「大草は持ち出しや持ち込みは禁止なんです」というと、残念そうだった。

終わりの会で、楽しかったという感想をいただいた後、「この頃家の近くなどでカタツムリを見たことがありますか」と尋ねたら、誰も手を上げてくれなかった。知らないうちに、カタツムリの暮らせる環境がかなり減っているのでは…と懸念が残った。